

# 第15回日本臨床腫瘍学会学術総会開催報告

Report of the 15th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Oncology

会長 谷本 光音 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学)

Mitsune Tanimoto (Department of Hematology and Oncology, and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)



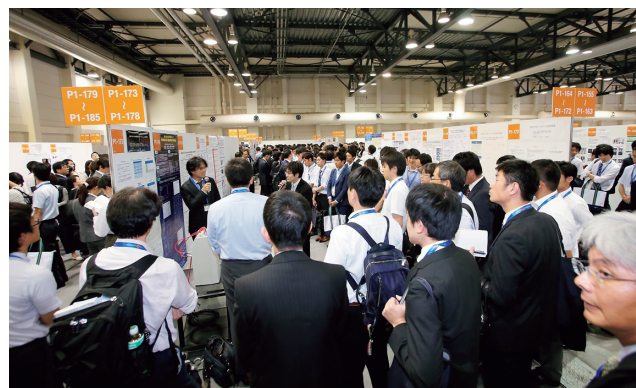
学術総会会長の谷本光音教授による開会の挨拶

このたび、兵庫県神戸市の神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテルの3会場において、2017年7月27日～29日の3日間、会長として谷本光音教授が第15回日本臨床腫瘍学会学術総会を開催いたしました。事前および当日参加登録者、国内外の招聘演者も含め、6,700名以上の参加者を得て、盛会裡に終了することができました。これもひとえに、岡山医学会ならびに関連各位のご支援の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

今回の学術集会のタイトルは「最適のがん医療—いつでも、何処でも、誰にでも—」(The Best Cancer Care—Anytime, Anywhere, and for Anyone—)でした。がん対策基本法が施行されて10年が経過した今、がん医療の均てん化がどこまで進んだのか、医療関係従事者、研究者だけでなく患者さん、一般市民の方々とも議論し、検証の上、将来に向けた方策を探ることをメインのテーマに掲げ、会長特別企画のセッションを組ませていただきました。

本学術集会では、「領域横断的体系の継承」、「グローバル化の更なる推進」、そして「最新成果の公表と情報共有」を学術集会のサブテーマとして位置づけました。領域横断的体系の実装として、特定の癌腫にと

られることなく最も高質な臨床知見3演題を選定の上、発表いただくプレナリーセッションに加え、新たにセミ・プレナリーセッション10演題を設け、最新の学際的知見に触れていただけるよう配慮しました。また“Cardio-oncology”(がんと循環器双方の領域で診療科の枠を越えて横断的に連携する診療体系)、“緩和医療”、“がん教育”、“AYA (Adolescent and Young Adult) 世代”(思春期・若年発症のがん患者のこと)など、がん医療者・研究者にとって早急かつ適切な取り組みが求められつつある分野も広く取り上げました。会場での討議成果は今後のがん医療現場に直接反映いただけるものと期待しております。グローバル化の推進は、名だたる海外の学会(米国臨床腫瘍学会 American Society of Clinical Oncology, 欧州臨床腫瘍学会 European Society of Medical Oncology)に加えて、中国、台湾、韓国、シンガポール、豪州からの関連学会とのジョイントシンポジウムなどを複数用意し、各国間での違いや学ぶべき点など様々な議論が交わされました。海外から招請演者50名超の参加に加えて、海外から100題を超える一般演題応募をいただきました。国内のみならず海外からの研究者が一同に会して、臨床腫瘍学に関わる非臨床・臨床的観点から情報を交換し、研究者間の交流を促進する良い場となったのではと思っております。



ポスター会場での熱気あふれる討議

一般市民の方を対象としたプログラムの充実にも心がけました。岡山大学鹿田キャンパス内の Junko Fukutake Hall を患者さんや市民の方々に開放し、岡山に居ながらにして神戸会場での講演を聴講できるよう、神戸会場での PAP (Patient Advocate Program ; 患者・家族向けのプログラム) の生中継を行いました。さらに「がんと生きる」をテーマに両会場を結び、双方向性に意見交換ができるセッションを開催しました。3日間を通じて、計300名を超える市民の方、患者さん・ご家族にご来場くださり、聴講のみならず闊達な意見交換をいただきました。

本学術集会は例年と同じく盛夏での開催となりましたが、会場外の暑さ以上に熱い議論が交わされました。涼しさ・くつろぎを少しでも感じていただけるよう氷柱・ミストの設置、託児施設の充実、会員懇親会の開催などの準備をいたしました。さらにはおもてなしの一環として、児島のジーンズ生地ですつらえたコングレスバックを用意し、きびだんご、大手饅頭、みさお



海外招聘者との懇親会



会員懇親会で親交を深める参加者



神戸会場からの中継に聞き入る聴衆者、岡山会場（Jホール）にて



涼しさを感じていただくよう用意した氷柱



岡山らしさを演出

牧場・安富牧場のジェラートなどを振る舞い、岡山色豊かな学会となりました。

最後に、本学術集会が盛大に開催できたのは、「がん診療」に携わる院内の多くの先生方に診療科の垣根を越えて企画立案の段から様々ご指導・ご鞭撻をいただいたおかげと感謝しております。まさに前述の“領域横断的な”チームワークの重要性をひしひしと痛感する次第です。懇親会での貴重なご挨拶やシンポジウム座長の労をお取りいただいた那須保友研究科長，院内・院外の企画委員の先生方，学会本部，協賛企業様，医

局員，秘書，技術員，そしてご参加をいただいた全ての方に深く感謝を申し上げて，報告にかえさせていただきます。

(岡山大学病院 新医療研究開発センター 堀田勝幸，  
岡山大学病院 血液・腫瘍内科 西森久和 記)

---

平成29年9月13日受稿  
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1  
電話：086-235-7227 FAX：086-232-8226  
E-mail：khotta@okayama-u.ac.jp